

新商便り 11月号

～真心を伝える～

愛媛県立新居浜商業高等学校 図書研修課

言葉は何のために発せられるのか。文字は何のために書かれるのか。それは、誰かに伝えたいことがあるからです。今回はこの「伝える」ということについて話をしようと思います。

ミツバチは、花のある場所を見つけると、巣に帰って仲間たちの前でダンスを踊るように飛び回るそうです。これは単に「食料発見」という報告に止まらず、花までの方角や距離まで伝えることのできるものだそうです。つまり、一種の「言葉」と言えます。

日本人は、大昔には自分たちの文字を持っておらず、国の歴史から生活に必要な知識に至るまでのあらゆる情報を、口伝で語り継いでいたそうです。文字や映像のある現在から考えると、とても大変だっただろうと思います。

ところで、この2つの事実の間には、共通点と相違点があります。まず共通点ですが、それは「自分たちの社会をよりよくするために伝える」という点です。ミツバチは、可能な限り効率よく、最大限のハチミツを巣の仲間にも届けるために伝えます。もし独り占めしたいなら伝えないはずですが。同様に人間も、自分たちの仲間や子孫が少しでもいい生活ができるようにと伝えるのです。次に相違点は、「ミツバチの情報はごく最近のもの」であるのに対し、「人間の情報ははるかな過去も含むこれまでのもの」という点です。生物が放っておいても成長できるのは、自然界でそういう生物として進化したところまでが限界です。生まれた後に得た知識や技術などは、本来ならその個体だけのものとして、その人生の終わりとともに失われます。しかし人間は、それを言葉や文字にして、あるいはやって見せて、周りや次の世代の人々に伝えます。もしこれがなかったなら、生まれてからこれまでに電気というものを自力で発明していなければ、今に生きる私たちはスマホどころか照明すら使えていないはずなのです。

こんな話をすると、生活に直接役立つ情報だけが良いもののように感じるかもしれませんが、そういうわけではありません。小説などのいわゆる物語も、登場人物の生き様から、この世の中を生き抜く方法を学ぶことができます。物語の作者は、そうした「人としてどう生きるか」というメッセージを伝えようとしているのです。

この「伝える」という他者への思いやりが、「本」を生みだしました。形あるものとして持ち運びのできる情報。「読書の秋」に図書室でたくさんの思いを受け取ってみませんか？ そうして得たものを、また誰かに引き継いでいてもらいたいと願います。どうせなら、できるだけたくさんのものを引き継ぎるようにしたいですね。